

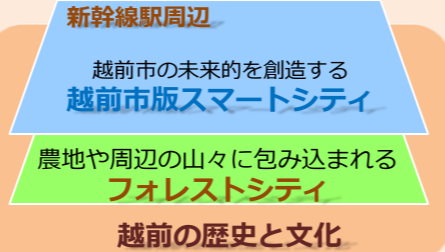
■新幹線駅周辺で実現する越前市版スマートシティの考え方について（素案）

- ① Society5.0の実装の場
- ② IoT、ビックデータなどの先進技術を活用して都市の課題（交通・健康医療・災害）や地域格差の解決を図るもの

越前市版スマートシティのイメージと社会の趨勢

◆越前市版スマートシティが目指すイメージ

- ・ 培われてきた伝統産業や営農といった越前の歴史や文化を背景に
 - ・ 原風景である農地や山々に包まれたフォレストシティの世界観の中で
 - ・ 先端技術の導入など越前市の未来を創造するまちを形成するもの
- 様々な分野、地域、技術、産業等を横断・連携し、ICT等の最先端技術を導入による革新を引き起こすまちづくり
→「オープン・イノベーション」



◆スマートシティを取巻く趨勢

- ・ 国内先行モデル事業の多くは大都市等の既成市街地等(ブラウンフィールド)。新市街地(グリーンフィールド)での事例は少ない。
- ・ 「スマートシティ会津若松」、「柏の葉キャンパスシティ」等「分野横断型」の取組みが増えつつある。
- ・ 技術先行型から課題解決優先型の取組みへの移行。
- ・ 失敗事例も多く、モデルプロジェクトなど補助金頼りの社会実験に留まり実用化に至らないことも多い。

◆スマートシティの定義

- ・ 都市の抱える諸課題に対して、ICT等の新技術を活用しつつ、マネジメント(計画、整備、管理・運営等)が行われ、全体最適化が図られる持続可能な都市または地区(国土交通省都市局)
- ・ 先進的技術の活用により、都市や地域の機能やサービスを効率化・高度化し、各種の課題の解決を図るとともに、快適性や利便性を含めた新たな価値を創出する取組であり、Society 5.0の先行的な実現の場(スマートシティ官民連携プラットフォーム)

新幹線駅周辺や越前市の状況

(□：新幹線駅周辺 ○：越前市全域)

1 現地状況・立地

- 良質な農地が広がる 100ha の広大な土地
- 新幹線駅、北陸道 IC、国道 8 号等交通便利
- 具体的な開発計画が顕在化しておらず地域の需要等が見えない

2 人口動向

- 人口減少、若年層の流出
- 労働力として外国人人口の増加

3 産業の状況

- 先端産業大手が立地し県内随一の製造品出荷額等を誇る
- 刃物・和紙・箆笥等の伝統産業
- 高齢化、後継者不足、農産物価格の低迷等による、農業者減少、農地荒廃
- 市域の6割を占める森林保全が必要だが、林業従事者の高齢化、木材需要の低迷などにより、担い手不足、森林の荒廃

4 公共交通の状況

- 在来線駅との公共交通手段の確保
- 地域の高齢者等の移動手段としての公共交通の役割の高まり

5 環境・エネルギー特性

- 暖房や消雪のため冬季熱需要が多い
- コウノトリが舞う里づくりに向けた自然環境保全
- 温暖化防止等や環境意識の高まり

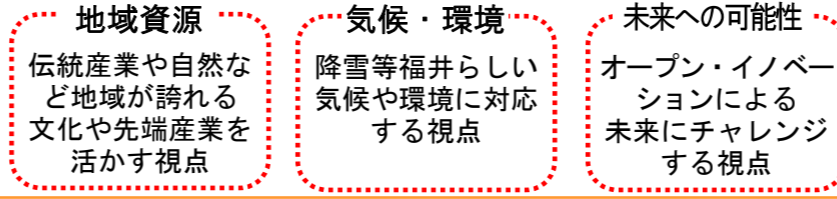
6 災害の状況

- 近年、大雪やゲリラ豪雨等自然災害の多発

7 観光の状況

- インバウンドの増加(コロナ流行以前)
- 滞在型観光客の増加のためには拠点間の連携した取組みが必要
- 伝統産業の人気の高まり

「越前市」らしいまちづくりの実現に向けた視点



越前市版スマートシティ形成を前提とした課題

1 先端産業・伝統産業・農業

- ・ 先端産業を活かした産業イノベーション、新たな産業集積地
- ・ 伝統工芸産地間の連携強化、販路拡大
- ・ 農業後継者の減少、農地の荒廃への対応
- ・ 木材利用による林業の活性化、雇用の場の創出

2 交通

- ・ 在来線駅との公共交通手段の確保
- ・ 来街者や地域の高齢者等の移動手段としての公共交通の利便性向上

3 エネルギー・自然共生・脱炭素社会の創出

- ・ エネルギー需要特性を活かしたエネルギー利用の効率化
- ・ SDGs や Society5.0 と人の生産性向上が創る地域循環共生圏の創出

4 安全・安心

- ・ 地区の特性を踏まえた防災、防犯の取組み
- ・ 河川氾濫・ゲリラ豪雨等自然災害への対応
- ・ 積雪への対応、道路の消雪施設整備・連携の強化

5 観光・交流

- ・ 越前の玄関口として観光情報発信等、観光資源の広域的連携の強化
- ・ 伝統産業の観光への活用

越前市版スマートシティの実現に向けた検討項目

1 産業の新たな展開

- ・ 越前市に蓄積された産業技術の横断的な研究開発施設の展開
- ・ 1次・2次産業従事者を支えるための3次産業施設
- ・ 農業のスマート化支援、体験、研究やその拠点施設
- ・ 地域の社会基盤として5G/6G環境の構築とその活用

2 交通環境の利便性の向上

- ・ 新幹線駅と在来線駅を結ぶ公共交通として、電気自動車、カーシェア、相乗り(ライドシェア)、MaaSの取組み
- ・ 駐車場管理システム
- ・ 自動運転自動車等の実装実験

3 エネルギー負荷低減と活用

- ・ 太陽光等再生可能エネルギー、未利用エネルギー等エネルギーの地産地消による低炭素化、RE100、融雪熱源への利用
- ・ 建物間のエネルギー融通、熱源の共同利用による効率化
- ・ 建築物のエネルギー負荷の低減、建物配置(風の通り抜け)
- ・ CO2の低減、ヒートアイランド現象の緩和、農空地の活用
- ・ 越前の地域資源を最大限活用する地域循環共生圏の創出

4 安心・安全の確保

- ・ 太陽光発電と蓄電池による電力供給可能な防災拠点
- ・ 夜間等の防犯対策(人感センサーによる照明の効率化)
- ・ 豪雪など災害時の防災拠点の形成

5 観光・交流の促進

- ・ 5Gの導入やWi-Fi環境の構築や観光アプリの開発・提供による観光資源へのアクセス性向上、観光資源の広域的連携
- ・ 伝統産業等のバーチャル体験など販路拡大、グローバルな事業展開支援

事例1 柏の葉キャンパスシティ

○公民学連携のまちづくり体制のもと、民間データ・公共データが連携したデータプラットフォームを構築し、新技術により社会課題解決へ



事例2 スマートシティ会津若松

○ICTを最大限活用し政策を実現するため、データプラットフォームを構築の上、産官学連携による人材育成により、まちづくりへ貢献



事例3 Fujisawa サスティナブル・スマートタウン

○100年続くサスティナブルな街づくりを目指し、新たなソリューションやライフスタイルの提案に向けたタウンサービスを実施

